令和６年度　庄野小学校　校内研修

＜主題＞

自分の考えを　わかりやすく伝え合う子どもの育成
～全教科全領域を通して～

## １．主題設定の理由

昨年度から研究主題を「自分の考えをわかりやすく伝え合う子どもの育成」とし、全教科全領域で取り組んできた。説明する力、話す力が弱く、生活の中で自分の思いをうまく言葉にすることができず、手を出してしまう児童や、自分の思いを言葉で伝えられても、相手の思いを受け止めて、それを受けて話すという伝え合いの力が弱い児童がいるという課題がみられたためである。このような状況は、相手に対して、自分の伝えたいことをどのように伝えたらよいかという技能や表現力に起因するものと考えられた。そこで、児童の伝え合う力を高めるために、わかりやすく話す力や話を聞き取る力を身に付けさせ、児童自身が伝え合いを楽しいと感じ、伝え合うことへの意欲を持つことが大切だと考えた。

昨年度は話す聞く力の育成の方策の一つとして、スピーチに取り組んだ。回数を重ね、人前で話すことに慣れてきている児童も見られるようになった。その中には『話し方名人』や『めざす子ども像』を達成できている児童の姿もあった。しかし話すために事前にまとめておかないと、順序を考えて話せなかったり、言葉をうまく表現できなかったりすることがあった。

また、聞き方についても、『聞き方名人』を達成できるようになってきた児童はいた。これをさらに推進するために聞くための指導の取組として、自分の話をわざと聞いてもらえないという体験をさせた。そうすることで、聞いてもらえない悲しさを感じさせた。その結果、話している人を見る意識が高くなり、「どこを見る？」といった短い言葉で、話をしている人を見て聞くことができる児童が増えてきた。

しかし、声掛けが必要な児童もいたので、まずは、話をしている人の方を向いて話を聞くことを徹底していかなければならない。また、聞いている内容のポイントを考えながら聞いたり、内容をしっかり掴んだりすることができていない児童が多かった。

これらのことから、今年度も昨年度の研究主題を継続していく。

## ２．めざす子ども像

・自分の考えをわかりやすく話すことができる子
・相手の思いを受け止めながらしっかりと聞くことができる子
・聞いたことに対して、自分の考えを伝えることができる子

**「自分の考えをわかりやすく話すことができる子」とは**

| | | |
|---|---|---|
| 低 | ① 話す順序を考える。<br>② 声の大きさや速さに気をつける。 | 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考え、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。 |
| 中 | ① 理由や事例を入れる。<br>② 話の組み立てを考える。<br>③ 抑揚、強弱、間の取り方に気をつける。 | 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考え、話 の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、 間の取り方などを工夫することができる。 |
| 高 | ① 自分の考えと事実を分ける。<br>② 話の構成を考える。<br>③ 聞き手の様子を見て、工夫して話す。 | 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考え、聞き手の様子を見るなどして、自分の考えが伝わるように表現の仕方を工夫することができる。 |

**「相手の思いを受け止めながらしっかりと聞くことができる子」とは**

| | | |
|---|---|---|
| 低 | ① 聞こうと思って聞く。<br>② 最後まで聞く。<br>③ 感想をもつ。 | 話し手が知らせたいことに興味をもち、大事なことを聞き落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 |
| 中 | ① 話の中心をとらえて聞く。<br>② 大事なことを記録しながら聞く。<br>③ 質問をする。<br>④ 自分の考えをもつ。 | 必要なことを記録したり、質問を考えたりしながら聞き、 話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。 |
| 高 | ① 目的や意図を考えて聞く。<br>② 自分の考えと比べる。<br>③ 自分の考えをまとめる。 | 話し手の目的や意図に応じて、 話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。 |

この２つの力を身につけることで、「聞いたことに対して、自分の考えを伝えることができる子」に近づいていくことができると考える。

## ３．具体的な方策

（１）スピーチに取り組む
（２）伝え合うことへの意欲を持たせられる、魅力的な教材を選ぶ
（３）自分の話し方・聞き方を振り返る
（４）安心して自分の考えを出すことができる学級づくり
（５）基礎学力をつける

### （１）スピーチに取り組む

本校の考えるスピーチとは、自分の考えや思いを相手に伝えるものである。身近な題材を活用し朝の短い時間等を活用して取り組むことができるし、学習場面でペアやグループ、全体で取り組むこともできる。ペアやグループ、皆の前で話す機会を多く取ることで、自分の考えや思いを伝え合うことに慣れさせていきたい。そのスピーチの題材としては学級・学年で「話したい」「聞きたい」と思える題材を設定するのも良い。また国語の教科書の「つづけてみよう」で各学年提示されていることを使うのも良い。全教科全領域を通して取り組むことが可能である。

また、スピーチでめざす子ども像にある項目を指導する。そうすれば、繰り返し指導ができ、児童は話す聞くことの練習に取り組むことができ、話し方、聞き方の定着を図ることができるだろう。さらに、聞き手には「うなずく」「相槌をうつ」「首をかしげる」などの話し手の意欲がより高まるような反応をさせたい。

### （２）伝え合うことへの意欲を持たせられる、魅力的な教材を選ぶ

話す技能を身につけさせることができたとしても、「自分が考えていることを言いたい」という気持ちがなければ、子どもたちは伝え合わない。そのため、子どもたちの「伝え合いたい」意欲を持たせられる教材を選ばなければならない。「伝え合う」活動は国語科以外にも全教科全領域で取り組むことは可能である。見通しを持って、どの単元で重点的に行うか考えることが必要である。

### （３）自分の話し方・聞き方を振り返る

スピーチの後は折に触れ児童に振り返りを行わせる。更に、めざす子ども像の達成度を把握するために、アンケートを作成する。アンケートは、年度始めと１学期末、２学期末と学年末に行う。その結果と教師の評価をもとに、現状を把握したり、前回の結果と比較をしたりして、教師は自身の取組を振り返り、次学期の取り組む内容に活かしていく。これを繰り返すことで、学級の児童の実態に合わせた取組を行うことができ、めざす子ども像に近づくことができると考える。

### （４）安心して自分の考えを出すことができる学級づくり

安心して自分の考えを出させるためには、まずは自分の考えたことを出したときに否定されないこと、話を最後まで聞いてもらえること、そしてそのことが当たり前のこととしてクラスで共有されていることが重要である。そのためには、まずはしっかりと最後まで関心をもって聞こうとする態度の育成、お互いの考えや思いを尊重する態度、それぞれがつながろうとする意識など、様々な側面を学校生活全般においても育てていく必要がある。本校の人権推進委員会とも連携して、取り組んでいきたい。

## （５）基礎学力をつける

①学力の定着

授業力UP５を意識し、授業を行う。

ア）くりかえし漢字練習や計算練習を行い、基礎基本の学力を定着させる。
　　クロームブックも活用させる。

イ）個に応じて算数や国語のチャレンジ問題にも挑戦させる。

ウ）低学年は視写に取り組み、中学年は読む書くワークシート、高学年はよむ
　　YOMUワークシートに取り組ませる。

エ）くりかえし音読練習をし、正しく読ませる。

オ）家庭学習 （宿題、自主学習）

・保護者用の家庭学習の手引を配付し、協力を要請する。
・児童に家庭学習のすすめ方を指導する。
・各学期１回「学習時間ぐんぐんアップ活動」に取り組む。

②読書活動の充実

ア）朝読や授業中の隙間時間は活字の本を読む。（物語・小説等）

イ）図書室の貸し出しの本や学級文庫の本、巡回図書、県立図書館の貸し出し
　　本等、読書環境を整える。学級文庫の充実を図る。

ウ）教科書で紹介されている本を学級文庫に入れる。

エ）読書ボランティアによる読み聞かせを行う。

オ）図書袋を机の横にかけ、本（辞典）を入れ、いつでも読めるようにする。

カ）読書の記録をつける。

③地域のボランティアの活用

ア）読書ボランティア

・朝の読書の時間に読み聞かせを行う。

イ）地域の人材から学ぶ

・すずか夢工房・ホンダ環境ワゴンなどを活用する。
・地域の特色ある取組から学ぶ。

＜昨年度までの取組＞

低学年･･･昔の遊び、ストーンペインティング、芋づくり

中学年･･･庄野獅子連、地域の施設見学（庄野宿資料館、イオンモール鈴鹿)
　　国際理解、ホタル保存会、庄野消防団、バリアフリーの学習

高学年…バケツ稲、庄野獅子連、女人堤防、庄野の歴史と戦争の話、
　　国際理解

## ４．研修の内容

①授業研究の推進

○全体公開授業の実施

・提案授業を低中学年（１・２・３・４年）で１本、高学年（５・６年）で１本全体公開授業を行い、事後研も全員で行う。事前研は学年部で行い、全体に伝える。また、提案授業は講師を招聘する。

○低中・高学年部で研修を深める

・事前研は学年部または学年で行い、事後研は学年部で行う。
・授業を普段から交流し合う意識をもつ。
・専科や特別支援学級担任、養護も所属学年部で研修を深める。
・ビデオ・授業記録を活用する。
・全体公開授業は指導案、学年部公開授業は本時案を書き、全員に配付する。人権の公開授業については学年部公開でも指導案を全員に配布。
・年度末の学年のまとめに使えるように、ビデオや写真を撮ったり、子どものノート等資料を残したりしておく。
★学年部（学年）での事前研・公開・事後研は、必要であればメンバーを拡大して行う。

②講師招聘による研修

（未定）

③研修の推進

○生徒指導委員会、人権研修委員会、特別支援委員会と共に研修を推進する。

・月に１回程度　　・夏期休業中の研修

④みえスタディチェック、全国学力・学習状況調査を活用した学習習熟度の把握

○４、５年生…みえスタディチェック
○６年生…全国学力・学習状況調査

⑤学習ぐんぐんアップ活動の集計を活用した学習意欲の把握

○学習ぐんぐんアップ活動（学期１回）

⑥ICT研修の推進

○必要に応じた研修
○学年に応じたchromebookを使った学習の指導内容

⑦評価の検討

○学習指導要領に沿った評価
・評価規準、基準の検討
・あゆみ・指導要録の記入についての確認
・道徳の評価規準・基準の作成

⑧年間指導計画の作成

○教科書に沿った指導計画の作成

## ５．学習規律・学習環境

・学習の準備･･･授業が始まるまでに必要なものを用意する。
・チャイム始業･･･チャイムとともに授業が始められる。
・発表の仕方･･･指名をされたら「はい」と返事をする。
原則として、立って発言する指導をする。
（掲示物を活用し、相手に伝わる声の大きさを指導する。）
（椅子はしまわなくてもよい）
基本は児童が挙手し、指導者が指名後、発表する。
挙手は、右手をしっかり伸ばさせる。
・話の聞き方･･･していることをやめて相手の方を向く。うなずいたり、あいづちをうったりして反応する。
・姿勢･･･椅子に深く腰掛け、背筋を伸ばす。
・学習用具･･･筆箱の中身を整えておく。
・ノートの書き方･･･下敷きを使う。
・机の上の整理整頓･･･机の上は必要なものだけにする。
ノートは右、教科書は左に置く。
・教室の掲示物･･･前面には、学習の妨げにならないように必要なものだけを貼る。
・教室をきれいに保つ。

## ６．研修計画

| 学期 | 研　修　内　容 |
|---|---|
| １学期 | ・研修主題・研修計画・研修内容の検討<br>・「年間指導計画」の作成<br>・全国学力・学習状況調査（６年）<br>・みえスタディチェック（４・５年）<br>・全国学力・学習状況調査、みえスタディチェック　採点・分析<br>・授業研究会（提案授業・事後検討会）<br>・評価規準・基準の検討<br>・1学期の研修の振り返り（学年） |
| 夏期休業 | ・校内研修会（研修部）<br>・人権教育研修（人権部）<br>・生徒指導研修（生指部）<br>・特別支援研修（特支部）<br>・ICT研修<br>・鈴教研教研集会発表準備<br>・鈴教研教研集会発表<br>・教材・教具づくり |
| ２学期 | ・授業研究会（提案授業・事後検討会）<br>・２学期の研修の振り返り（学年） |

| | |
|---|---|
| ３学期 | ・５年生みえスタディチェック　採点・分析<br>・研修の振り返り（成果と課題）<br>・全体研修会（今年度のまとめ、来年度に向けて）<br>・次年度の計画 |